

史遊会通信

No. 219
平成 25 年
4 月 10 日
発行

事務局
☎ (03)
3712-0651
下山田方

三月講演要旨

考古学における新年代論の諸問題

新井 宏

ずいぶん堅苦しいタイトルとなったのには理由がある。実は、本講演は一月二十六日、愛媛大と瀬戸内海考古学研究会の依頼によって愛媛大学で行った講演をそのまま再現したものなのである。いわば考古学専門家に対する講演であり、専門家が十分に納得できるような内容としたために、理屈っぽい話が多くなるが、史遊会の高レベルを考慮すれば、かえって中途半端に「易しくする」よりも、そのままお聞き頂いた方が良いと判断したからである。

この判断は大正解であった。
今年、歴史民俗博物館が「炭素十四年代

法」によって「弥生時代五百年遡上論」を『新聞発表』してからちょうど十年になる。未だに、論争が継続しているが、奇妙なことにその大部分は、肝心の「炭素十四年代法」を全く抜きにして、従来の考古学的手法で歴博の年代論を認めることが出来ない主張しているものばかりで、完全なすれ違いである。理由は簡単である。炭素十四年代法について、歴博と対等に議論できる考古学専門家がいなかったからである。

その中であって筆者は異色な存在であった。大学で放射線物理を専攻したので、放射性同位元素である炭素十四について詳しい上に、

例会のお知らせ

◎ 4月例会

日時 平成 25 年 4 月 24 日 (水)
午後 6 時 ~ 8 時

会場 目黒区民センター 7 階

講演 社会教育館 第 2 研修室
中込勝則氏

テーマ 未定

自由執筆者 太田精一・森下征二・

佐藤健一の諸氏

締切 4 月末日

◎ 5月例会

日時 平成 25 年 5 月 22 日 (水)
午後 6 時 ~ 8 時

会場 目黒区民センター 7 階

社会教育館 第 2 研修室

講演 三戸岡道夫氏

テーマ 未定

自由執筆者 村上邦治・漆原直子・

平山善之の諸氏

締切 5 月末日

考古学研究にも三十年以上のキャリアをもっている。そのため、にわか勉強の歴博スタッフが見落としている問題点や意図的に隠蔽している問題点を次々に発見して、論文として発表し続けてきた。だからこの分野での「第一人者」と目され、講演に呼ばれるのである。

愛媛大での講演ではA4版で三十頁にわたる詳細なレジメを配布した。その内容を要約するのはとても困難であるが、サワリを簡条書きとしてまとめてみよう。

一、そもそも歴博が新聞発表した炭素年代は、その後の測定で期待に反して再現されなかった。百年も新しく出てしまったのである。これを暦年に校正すれば、数百年も新しい結果となる。だから、この段階で歴博が誤りを認めれば良かったが、なにしろ、学会発表に先駆けて新聞発表をし獲得した四億円もの研究費がある。辻褄あわせをせざるを得なかった。

二、地球規模の炭素十四の濃度分布から理論的に予測すれば、海洋国の日本では内陸・高緯度の欧米に較べて炭素年代が数千年古く出るはずである。その上、海岸遺跡では更に数千年古く出る。そうすると、暦年に校正する

と数百年も古く出てしまう。この理論的な予測は日本産樹木の炭素年代測定によって、最近次々に裏付けられている。

三、土器付着炭化物には古い炭素年代の腐植酸が付着している。この汚染を完全に除去しなければ、正確な炭素年代は出ない。しかし、腐植酸を完全に除去しようとする炭化物も溶けてしまい測定不能になる。そのため、土器付着炭化物では中途半端な除去処理しか行なわれていない。結論的に言えば、土器付着炭化物では、種子（桃核など）と比較すると炭素年代が百年単位で古く出ている。土器付着炭化物は炭素年代測定の試料としては極めて不適切なものである。

四、エジプト考古学ではシリウス星の観測記録に基づくエジプト暦を持っているが、炭素年代が百年から三百年ほど古く出て困っている。このような現象は、イスラエルとか中国にも見られる。

五、考古学分野における論争では、歴博説をそのまま認める研究論文は皆無である。多岐にわたる視点からの結論は、五百年遡上説を否認して、その遡上を百年から三百年とするものが多い。筆者の多岐にわたる検証結果もその範疇に入る。

講演の紹介とえば、愛媛大での講演についてインターネット上に載っている例を三件見かけた。これらの抜粋を載せれば立派な要旨になりそうである。

(その一) [://ameblo.jp/nshimojo/entry](http://ameblo.jp/nshimojo/entry)
新井宏氏の講演「考古学における新年代論の諸問題」は実に有意義でした……

歴博が主導するC14 AMSによる年代論に対し、矛盾の指摘、批判、提言など多方面から論じた内容で、実に興味深く、有意義な話で、聴視者皆聞き惚れていた。

大気中の炭素14比が高緯度、高層圏に高く、低緯度、低層圏で低いなど地域偏差があり、中緯度圏の日本などそれを無視して世界較正曲線に無原則に乗れない。世界較正曲線は高緯度の樹木をもとに造られていて、日本とは条件を異にしている、その差を無視できない。樹木差もある。海洋リザーバー効果は当然のこと、これも地域偏差があり、生活に於ける海洋環境の傍では年代は古くなる。

同じ層にでる果核や種子と土器付着炭化物には年代差があり、炭化物に古い値が出る。付着炭化物は汚染が著しくこれが年代を狂わせているとして、このコンタミ（汚染）を除去して、正しい、信頼できる値をだすべきだ

と実に豊富で、多彩なデータを提示して提言する。

氏はこうした疑問、疑惑をクリアーして信頼して使える年代値を出すべきだと、C14 AMSは使えるようになることを願っていた。

どこかと違って、誠に真摯な学術的姿勢を貫く立派な人物と見かけられた。ややもすれば、人間関係や組織関係、寄らば大樹の逃げ込み安心論なんぞによって、何が問題なのか承知もせずに歴博AMS年代を鵜呑みに使っているのが類書、一般書にも見られるが、こんな混乱のもと。一度、新井さんの提言に十分耳をかたむけた上で、どう対処するか考えるべきである。

(その二) Mutsu Nakaniishi

……この間このAMS法による計測値に基づけば、「箸墓」は西暦二五〇年頃の古墳と見られ、「箸墓は卑弥呼の墓」との説も信憑性のある説として急浮上した。

しかし、精度の良い年代計測法としてこのC14による新しい年代計測法が発表されて十年が経過したが、いまだに異論も多く、「弥生の始まり」も「箸墓卑弥呼説」も定着したとはいいがたく、論争が続いている。

そんな中で「検体が精度よく絶対値評価がなされるこのAMS法そのもののどこが問題なのか」は一般人の眼に触れることもなく、歴史論争のみが盛んに行われていて混乱が広がっているのが現状。……………

新井宏先生の講演はかねてより論争が話題になっていた「弥生時代の始まり」や「箸墓、古墳時代の始まり」など新聞報道では何があつたのか全く判らず、気になつていたので講演で示された鋭い指摘(ご研究・解析)・解説のおかげでC14年代法の課題が現状を含めてよく理解出来た。うれし

自由執筆

武則天の功罪(Ⅲ)

中込 勝則

7、武后の皇帝位への野望

中国では、昔から家意識が強く、武后が権力の頂点にあつても、彼女はあくまでも「李家に來た嫁」であつた。李家は倒さねばならないと思つた彼女は、出自の武家の身内で周りを固めようとし始める。武三思と武承嗣兄弟を呼び寄せ、三思を宰相にした。

い会でした。……………

この後に、「講演の課題や要約」が続くが省略する。

史遊会の講演では、あえて講演時間を一時間十分として、討論時間を多く採れるようにした。その結果、極めて高度な質問や議論が続出し、改めて「史遊会」のレベルの高さを再確認した。

流れ解散の居酒屋「天狗」でも、大いに盛上がり、愉快な時間を過ごせた。感謝している。

このころ中宗の補佐役だった裴炎の孫の李敬業が反乱を起こした。彼は何らかの罪に連座して広西省の柳州に左遷されることとなつたのを不満として反乱を起こしたのである。詩人で著名な駱賓王なども加わり反乱軍は一時は十万にもなったが、蜂起後一ヶ月で鎮圧され、李敬業は処刑され、駱賓王は行方不明となつた。裴炎も、事件に関わりは無かつた筈だが、後に処刑された。

このころから、武后の独裁政治は暗黒の道へ踏み込んでいく。

洛陽城の四か所に「銅匱」という投書箱を設けた。目的は、

① 仕官したいものが自分の能力を書いて入れる

② 政治の得失を述べる

③ 被った罪の不当を訴える

④ 謀反などの告発

などであったが、本当の狙いは彼女の独裁政治に反対する者の弾圧にあった。密告も奨励し、周興・来俊臣・俊思止などの酷吏を登用して、取り調べにあたらせ、反対派や罪のない者まで容赦なく拷問の末に殺した。

彼女の野望は自分が皇帝に登ることだった。そうでなければいつまでも「李家の嫁」でしかない。そして、李の血統の根絶をもくろみ、叛乱などの疑いをかけられて殺された王族はおびたらしい数にのぼった。それには酷吏たちが暗躍した。

また、このころから彼女のセックス・スキャンダルが始まった。それまではむしろ清潔だった彼女が突然六十歳を過ぎてめざめ、薛懷義という怪しげな僧侶とねんごろになった。薛懷義は、彼女の皇帝への道すじの理論武装にも加担し、大雲経から「武后は、仏陀の生まれ変わりである」ととれる一節を見つけ出

し、長安の大雲寺を全国の中心にすえて各州に末寺を造った。(日本において東大寺を中心に、全国に国分寺・国分尼寺を造ったのは、これを真似したものである)

こうして地ならしをしたのち、六九〇年、六十六歳のとき、彼女は皇帝位につき、国号も「周」に改めた。

彼女のセックス・パワーは更に全開し、新しく宮廷医師の沈南璆を身辺にはべらせ、薛懷義をすでに疎ましくなっていた彼女は、力の強い女官たちに薛懷義を宮廷内で打ち殺させた。すでに彼女は七十二、三歳、それまでは己の上昇に精力を費やし、そっちにはむかわなかったのが、ここで花開いたようだ。

さらに、その後、張易之・張昌宗という二十歳前後の美青年二人を男妾とした。

しかし、彼女も老いには勝てない。七〇四年ごろから体がおとろえ、後継者を決めざるを得なくなつて、退位していた中宗李顕を呼び戻して皇太子にした。

七〇五年正月、ついに宰相の張柬之がクーデターを起こして、張兄弟を殺し、彼女に讓位をせまった。中宗は復位し、国号の唐が復活した。

彼女は、この年の十一月亡くなり、高宗の

眠る乾陵に葬られた。唐という王朝がその輝かしくも世界に冠たる王朝になったのは、じつに高帝と武后の時代であり、李家は一旦は皇帝位から落ちて、世は平和で豊かで、周辺の各国からは長安・洛陽を訪れる人は絶えず、その文化を周辺に及ぼした。その後、先に述べた韋皇后による専横の時代はあったが、次の玄宗が「開元の治」を開く基礎は、武后時代無くしてはありえなかったと言つてよい。武后はその業績や人物才腕において、呂后や西太后などとは比べようもなく大きなものがあつたというべきであろう。

高宗と武則天は、今の西安から北西八十^キの、海拔一〇四mの梁山に造られた乾陵に葬られた。

私は今から十年ほど前、この陵墓を訪れたことがあるが、南と北に二つの盛り上がりがあり、北に高宗、南に武則天の墓がある。そのあいだは広い道路でむすばれて、両側には石像が立ち並んでいる。

時刻は夕方、中国特有の茫々たるもやの中に夕日が赫々と沈んでいた。

いま、中国では武則天の見直しがかなり進んでいて、彼女にあこがれる若い女性も多いという。

自由執筆
怪談

瀧澤 中

といっても、四谷や番町ではなく、永田町での怪談である。

某元首相の側近から聞いた話。

首相の夫人がある夜、首相公邸で寝ていたところ、隣の壁の方から話し声がして目が覚めた。

夫の首相は不在。

秘書がSPが雑談していると思い、しばらく放っておいたのだが、なかなか話し声が止まない。すでに寝巻を着ていたのでやむを得ず電話でSPに、「隣の『部屋』に誰かいるみたい。静かにさせて」と頼んだ。

SPはすぐに、指摘された「部屋」に向かった。

しかし。

夫人の寝室の隣、声がした方角に、部屋はなかった。あるのは、とても人の声など通らない分厚い壁だけ。その向こう側は庭になっているが、深夜に人が出入りする場所ではない。警備用カメラの記録にも一切人は映っていなかった。

別の某首相は、真夜中に軍靴のような足音で起こされた。部屋の前で足音が止まったので「誰だ！」と怒鳴り、様子を見に出たが、誰もいなかった。

五・一五事件での犬養毅や、二・二六事件で岡田啓介と勘違いされた松尾大佐など、首相官邸（現公邸）で殺された人は多い。要人のみならず、彼らを警護していた警察官たちも亡くなっている。

まあ、そんなことを言えば市ヶ谷台や旧近衛師団司令部のあった近代美術館工芸館、あるいは桜田門など、いくらでも「出そうな」場所はある。しかし、そういう場所の怪談はだんだん聞かれなくなっているのだが、首相官邸での話はなぜか、消えない。

新官邸の隣に移動した旧官邸は、現在、半分が記念に残り、半分が公邸として改築し、首相の住まいになっている。

で、旧官邸部分の正面玄関には、いまでも反乱軍が放つたとみられる銃弾のあとが残っており（「銃弾の跡」という確認はとれていないそうである）、また、絨毯に隠れて見えないが、二・二六事件の際に反乱軍がたき火をした跡がくっきり残っている（こちらは確実だそうである）。どうして銃弾跡やたき火

跡を補修しないのかその筋に問い合わせたが、「わからない」とのことだった。

なぜ、旧官邸の怪談話は無くならないのか。思うに、現官邸にはまったく感じられない重厚さと、襲撃跡を残しているために、旧官邸での怪談は現実味を帯びてくるのではなからうか。

二・二六事件以後、しばらく官邸に首相が住む事は無くなった。襲撃されてはかなわないと思つたらしい（私邸の方がよほど危ないと思うのだが、縁起を担いだようである）。が、佐藤栄作時代から再び官邸に住む首相が出てきた。やはり重大事が起きた時の対応を考えると、首相は官邸（公邸）に住むのが無難であろう。

ちなみに、公邸で殺された犬養毅だけでなく歴代首相の霊が出るらしいと聞いて、首相当時の小泉純一郎は、「ぜひ会って、話をしてみたい」と言つたそうである。

いかにも小泉流だが、実は密かにお祓いをしていた、という話もきく。

あれ？隣の部屋から話し声が。ん？こつちに部屋はないぞ・・・。
なんだ、表を歩いている酔っ払いか。

自由執筆

古代日本海文化の再認識

— 潟湖連合勢力と邪馬台国 —

諸橋 奏

日本海は大陸・朝鮮半島と日本列島の間の内海で、日本海沿岸は往古から日本の表玄関であった。大陸の先進文化に接しつつ、大和朝廷は四世紀半ばまでに成立したといわれるが「老与、西晋へ遣使（二六六年）」以後の百年余は日本史の空白とされている。

戦後多くの歴史家が、日本海地域にもしも記紀などが語る壮大な物語が存在したとすれば、相応の遺跡があつて然るべきとしてきた。

ところが島根県で、昭和五九年（一九八四）荒神谷（斐川町）から多数の銅剣などが平成八年（一九九六）加茂町岩倉（雲南市）から多数の銅鐸が発見され、古代日本海文化の再評価が改めて迫られることとなった。

また前後して弥生中期末遺跡妻木晩田（大山町）、青谷上寺地（鳥取市）の山陰二大弥生集落の発掘も進んだ。この両集落はともに交易上重要な潟湖（古代の天然の良港）として繁栄したことも分かった。これらの新発見を機に、山陰地方特異の「四隅突出型墳丘

墓」が政治勢力の存在と結びつけて論じられることとなった。「西谷墳墓群」（出雲市）や「荒島墳墓群」（安来市）などにみられるこの墓制は、越の国まで広がっていた。

さらに、平成一二年（二〇〇〇）の出雲大社境内での「古代大社御本殿心御柱」発見は謎の空中神殿の実在を証明するものであった。相次ぐ諸発見から浮上したのが、日本海沿岸に続く潟湖の存在であった。潟湖は沿岸を西から東上する対馬海流と冬のシベリア風の海食作用により造り出された潟で、古代の

潟湖は航海安全の守護神の座す聖地で、その跡地は神社や古墳などの形で多数現存している。潟湖跡の神社などを西から列記すると、出雲国Ⅱ稲佐の浜・出雲大社（出雲市）千酌湾・爾佐神社（松江市）

伯耆・因幡国Ⅱ妻木晩田遺跡・妻木壹宮神社

波波伎（伯耆）神社（倉吉市）

青谷上寺地遺跡（鳥取市青谷町）

白兔神社（鳥取市白兔）

現鳥取港（千代川河口）山陰海岸国立公園

但馬国Ⅱ現津居山港（円山川河口）、上流に

城崎町・豊岡市・但馬一宮出石神社

（兵庫県出石郡出石町宮内）

丹後・丹波国Ⅱ現久美浜湾、

網野町（古浅野川湖）・網野銚子山古墳

丹後町（古竹野湖）・神明山古墳

奥丹後半島を回り若狭湾へ。

宮津港・丹後国一宮籠神社（宮津市）

栗田湾・由良川河口

舞鶴湾

若狭・越前国Ⅱ日本海の海岸線は若狭国定公園を経て、能登半島の根元の敦賀で、東西性から南北性に急変する。これは古代の渡来人や海人にとって重要な地勢であった。古代敦賀には角鹿津（潟湖）があり海上交通の要所で、航海の守護神気比大神が鎮座していた。後世、軍神・国家の守護神、保食神の神霊も加わった元官幣大社気比神宮である。

ところで、改めて『魏志倭人伝』をみると、はじめに、「倭に至るには、海岸に循つて水行し」とある。文中「投馬国に至る水行二十日」、「女王の都する所、水行十日陸行一月」の水行は、北九州を発ち、日本海沿岸を潟湖に循つて但馬国円山川河口に寄港し、若狭湾に至り、上陸したことを物語っていると解釈出来る。

弥生時代、日本海沿岸部に連なる潟湖集落

同士が連合して一大勢力となり、王国を形成、さらにこの強大な勢力が大和地方に及んでいた。そしてその中心が丹後の籠神社であった。その歴史は籠神社の神社名「元国幣中社・丹後国一宮元伊勢籠神社」、主祭神「天火明命・諡号天照国照彦天火明櫛瓊玉饒速日命」、社宝『海部氏系図(昭和五十一年国宝指定)』、附『海部氏勲注系図』を精査することにより隠された真実に迫ることが出来る。

自由執筆

東北の縄文・弥生遺物研究から
見えてくるもの

中山 喬央

明治時代に入ってスタートした日本の現代考古学は、先ず日本人の系譜を明らかにする研究に重点をおいた。

その為には人骨研究が最も肝要であると考え、火山灰に覆われた酸性土壌が大半を占める日本列島において、人骨の残存確率の相対的に高い貝塚の発掘が優先されることになる。

その中で特に宮城県は顕著な発掘成果があった。時期別に見ると、檜崎貝塚と船入島貝塚出土のものは早期の縄文式時代人、大木貝塚出土のものは前期の縄文式時代人、川下警貝塚及び青島貝塚のものは中期縄文式時代人、高松貝塚及び金剛寺貝塚のものは後期縄文式時代人、沼津貝塚及び中沢貝塚出土のものは、晩期縄文式時代人の骨である。

その他、松島湾に臨む宮戸島の北西部に位置する「里浜貝塚」は縄文時代前期初頭から弥生時代を経て古墳時代の初め頃まで続く拠点集落を形成していた場所で、合計三十五体の人骨が発掘されている。

これら人骨の特徴は「日本石器時代人」として、他の地域と共通する特徴を持っていた。すなわち、縄文式時代人の頭蓋骨は、現代日本人のそれよりも、少し長めで低く、額の彎曲は弱く後方に傾斜している。顔面は頭蓋骨と比べると大きく、その形は短い四角形が多い。眉間は隆起が強いが、鼻根は鋭く陥入し、その下に続く鼻背は狭くて高く、鼻筋が通っている。歯は規則正しく並んで、歯列の乱れがない。上下の歯を噛み合せると上顎の歯と下顎の歯が噛みあい、現代日本人の大半で上顎の歯が下顎の歯よりも前に出ると違って

いる。

一般に歯冠の摩滅が著しく、下顎骨は大きく、後方の下顎枝は現代日本人より幅が広く、四股骨は扁平である。

この結果、縄文式時代人は日本人と全く違った人種で日本人が日本列島に渡来する前からこの島に住んでいた先住民族であると言う考え方が、シーボルト・ミルン・小金井良精・鳥居龍藏・喜田貞吉などの諸氏によって唱えられ、その先住民族とされたのがアイヌ人であった。

次に縄文式時代人は日本人の祖先であり、現代日本人との違いは大陸から渡来した民族との混血によって生じたものであるとする清野謙次の説がでた。

一方長谷部言人は、同じく日本人の祖先としながらも、その変化は生活状態の変遷に起因するもので有るとの考えを示した。

筆者は戦後六十有余年、日本人の体形の著しい変化を目の当たりにして、長谷部言人に魅力を感じている。

次は土器が指し示す問題である。

人口に膾炙されている研究発表として山内清男の「石器時代にも稲あり」がある。この

枳形罎式は弥生時代中期中様のものであるが、その土器の底部に靱殻の圧痕を検出しての発表であった。その他、同形式の土器から検出された稲穂の圧痕は、南小泉・大野田袋遺跡出土土器の底部からも検出され、この時期の稲作を実証している。

最後に宝ヶ峯遺跡出土の縄文後期中葉の土器と、沼津貝塚出土の縄文晩期の土器について日本列島各地への影響を含めて述べる。

宝ヶ峯式は関東の加曾利B式並行土器で、小型化傾向がみられるが、器形の分化が甚だしく、単に縄文あるいは条痕をつけただけの粗製土器と、縄文擦消の手法により曲線或いは帯状の文様を持ち、土器表面を研磨して光沢をだしたものも見受けられる精製土器がある。器形には甕・深鉢・浅鉢・壺・台付土器・土瓶・皿等がある。加えて全国でも希な程、多数の土偶・耳環・土鏝・スタンプリング・土製品が出土している。この中には可愛い、土製猿もある。

次は牡鹿郡稲井村の沼津貝塚出土のものである。この土器は縄文晩期のものであるが、粗製土器が縄文をただつけただけのもので、器形も広口壺と深鉢が大半を占めているのに

対し、精製土器は、粘土を水漉しし、甕・深鉢・浅鉢・皿・壺・高坏・土瓶・香炉形土器など多様な形態に分かれ、これに浮彫的に彫出された美しい文様、細かく整った帯縄文、羽状縄文などが施され該期、他に例をみない発達をとげた。

このためこの土器は東北から関東は言うに及ばず静岡・愛知・長野・岐阜・滋賀・奈良の各県で見られ模倣されるようになる。

その内訳は大洞C2式までは縄文時代の遺跡から、大洞A式になると、愛知県吉胡貝塚・保美貝塚などでは縄文式土器と、名古屋・市西志賀貝塚では古い型式の弥生式土器と共伴している。そして吉胡貝塚で共伴していた同地方の縄文式土器と同じものが、奈良県唐古・岡山県高島・福岡県夜臼・同板付などで弥生時代式土器の最も古いものと共伴しており、年代に大きな違いは認められない。

これら一連の動きは、縄文末から弥生当初にかけて日本列島をリードしたのは東北であるということを確認していると思考する。

事務局だより

※目黒川の桜もすっかり葉桜になり、新緑が川面を覆うようになりました。終会後の川端のそぞろ歩きも、少しは気分が出るかもしれません。気持の良い季節です、夜のお散歩がてら会にご出席ください。

※講演者の方へのお願い

最近、講演テーマのご連絡が遅くなっています。講演担当月は史遊会通信No.217で発表してありますので、ご自分の担当月の前月までに事務局へお知らせください。また、お願いいたします。なお、総会でも話し合われましたが、数行の講演内容のお知らせも合わせてお送りいただければ、幸甚に存じます。※友の会の皆さまへ

友の会の会員の方の自由執筆も史遊会通信に載せていきたいと思っておりますので、一頁位の投稿をお願いいたします。何号に載せるか、またちよつとした訂正などは事務局にお任せいただきます。